

2026 年 2 月 5 日

「恋愛・結婚に関するアンケート調査」実施結果について

株式会社明治安田総合研究所（社長 森本律子）は、年代別「恋愛・結婚に関するアンケート調査」を実施しました。当社エコノミストによる分析を加えて調査の結果を掲載しました。

I. 恋愛観について (P4～)

◆恋愛・交際に関する意識

- ・未婚者の 4 人に 3 人以上（76.3%）が「現在交際相手はいない」と回答、[前回 2023 年](#)の 72.0% から上昇しており、恋愛離れが加速。前回同様、男性が女性を上回る
- ・未婚者のうち 49.5%が「恋愛・交際に関して興味がある」と回答、[前回](#) 59.9%から割合は低下

◆出合いのきっかけ

- ・恋人や結婚相手となる可能性がある人との出合いのきっかけをたずねたところ、「知人からの紹介」がトップで、「職場」が続き、「飲み会・合コン」が[前回](#)から上昇。25-29・30-34 歳では「マッチングアプリ」の割合が約 3 割を占める

◆理想の連絡頻度とデートの頻度

- ・恋人との理想の連絡頻度は男女とも「毎日 1 回程度」、理想のデート頻度は「週 1 回程度」がそれぞれトップ

◆デートでの支払い

- ・女性はデート回数にかかわらず「半々」の支払いを希望する割合が高い一方、男性は「すべて支払う」を含め多めに支払う意識が高い傾向。支払いについてインフレによる負担増を感じる割合は若年世代ほど高い

主任エコノミスト 森田幸大が分析！

II. 結婚観について (P9～)

◆交際から結婚へ

- ・未婚者に、交際に至った場合は結婚を考えるかをたずねると、47.2%が「あてはまる」と回答、[前回](#)の 43.9% から割合は上昇。同棲してから結婚したいと考える人の割合も若年世代を中心に高い
- ・女性は男性に比べ、恋人との連絡において既読・未読スルーを気にする傾向

◆結婚の意向

- ・結婚の意向について、未婚者の 36.8%が結婚したいと回答、[前回](#)の 47.3%から割合は低下

ご照会先

株式会社明治安田総合研究所
経済調査部
藤田（前田、森田）

本調査内容の引用・転載をご希望の場合は、下記までご連絡いただきますよう、お願いいたします。

電 話 ▶ 03-6261-6411（代表）

E メール ▶ takafumi.fujita@myri.co.jp

ホームページ ▶ <https://www.myri.co.jp/>

- ・結婚したい理由をたずねたところ、未婚者の男女とも「好きな人と暮らしたい」「支えあえる人が欲しい」が上位。なお、「経済的に安定したい」は女性が 15 割程度男性を上回る。女性は男性より、結婚は生活面や将来の安心が得られるものと捉えている可能性も
- ・結婚したくない理由では、女性は「必要性を感じない」が、男性は「自分が自由に使えるお金が減りそう」がトップ

◆家事分担

- ・理想の家事分担（子育て含む）割合は「自分：5 割、相手：5 割」である一方、現実には男女間でギャップ。仕事の日については男性の 58.6%が「自分が 5 割以上」家事を行なっていると感じている一方、女性の 95.0%が「自分が 5 割以上」家事を行なっていると感じている

◆理想のライフコース

- ・女性が望む理想のライフコースは「結婚もしくは出産後に退職、子育て後時短・パートタイムで仕事に復帰」と「結婚し出産後もフルタイムで仕事を続ける」がほぼ同水準でトップ。一方、男性が女性に求める理想のライフコースは「結婚し出産後もフルタイムで仕事を続ける」がトップ

主任エコノミスト 前田和孝が分析！

Ⅲ. 疑似恋愛について (P16～)

◆推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛をしている

- ・若年世代を中心に推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛が浸透。ただし、6 割以上が推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛とリアルな恋愛の線引きができていないと回答

◆恋人の推し活を応援したい

- ・推し活に慣れ親しんでいる若年世代ほど、恋人の推し活を応援する傾向

◆推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛の対象に対する金銭の提供（投げ銭）

- ・推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛の対象に対する金銭の提供（投げ銭・プレゼントなど）をしているとの回答は半数を超える。1 回あたりの平均金額は 1,000～5,000 円が最多で、累計額では 10,000 円以上 50,000 円未満が最多

主席研究員 藤田敬史が分析！

Ⅳ. AI やテクノロジーが恋愛・結婚に与える影響について (P21～)

◆恋愛や仕事について生成 AI に相談

- ・若年世代ほど、恋愛や仕事について生成 AI に相談する割合が高く、Z 世代では 3 人に 1 人に達する

◆AI 利用に対する対価、考え方

- ・AI 利用に支払う対価については「有料サービスは利用したくない」が 7 割を占めトップ。ただし、AI への相談割合が高い若年世代ほど AI のアドバイスは有用であると回答しており、使い方を工夫している可能性も

< 調 査 の 概 要 >

- (1) 調 査 名 : 「恋愛・結婚に関するアンケート調査」
- (2) 調査対象 : 18 歳から 54 歳までの男女 8,872 人
- (3) 調査エリア : 全都道府県
- (4) 調査時期 : 2025 年 12 月 12 日 (金) ~ 12 月 21 日 (日)
- (5) 調査方法 : WEB アンケート調査
- (6) 回答者の内訳 : 既婚者 3,909 人および未婚者 4,963 人の男女計 8,872 人

(単位 : 人)

	女性(未婚・既婚)								男性(未婚・既婚)								計
	18-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	18-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	
北海道	11	12	12	12	12	12	12	12	19	8	13	13	13	12	12	12	197
青森県	12	9	13	13	12	12	12	12	10	7	12	13	13	13	13	12	188
岩手県	11	10	13	13	12	12	12	12	11	6	9	14	14	14	13	13	189
宮城県	13	12	12	12	12	12	12	12	12	8	13	13	13	13	12	12	193
秋田県	12	7	13	13	13	13	12	12	8	7	11	13	13	13	13	12	185
山形県	9	7	13	13	13	13	12	12	8	8	12	13	13	13	12	12	183
福島県	11	8	13	13	13	13	12	12	7	6	13	13	13	13	13	12	185
茨城県	11	12	12	12	12	12	12	12	11	8	12	13	13	13	13	12	190
栃木県	12	9	13	13	12	12	12	12	7	6	12	13	13	13	13	13	185
群馬県	12	10	13	13	12	12	12	12	10	8	13	13	13	13	12	12	190
埼玉県	11	12	12	12	12	12	12	12	25	12	12	12	12	12	12	12	204
千葉県	11	12	12	12	12	12	12	12	21	7	13	13	13	13	12	12	199
東京都	11	12	12	12	12	12	12	12	39	12	12	12	12	12	12	12	218
神奈川県	11	12	12	12	12	12	12	12	33	11	13	12	12	12	12	12	212
新潟県	13	8	13	13	13	12	12	12	12	6	12	13	13	13	13	13	191
富山県	11	9	13	13	12	12	12	12	8	6	11	14	13	13	13	13	185
石川県	12	8	13	13	13	13	12	12	8	6	11	13	13	13	13	13	186
福井県	10	9	12	13	13	13	12	12	7	6	12	13	13	13	13	13	184
山梨県	10	7	13	13	13	13	12	12	6	6	9	14	14	14	13	13	182
長野県	11	8	13	13	13	12	12	12	4	7	12	13	13	13	13	12	181
岐阜県	11	9	13	13	13	12	12	12	12	8	12	13	13	13	13	12	191
静岡県	11	12	12	12	12	12	12	12	12	8	13	13	13	13	12	12	191
愛知県	11	12	12	12	12	12	12	12	22	10	13	12	12	12	12	12	200
三重県	11	11	12	12	12	12	12	12	12	6	11	14	13	13	13	13	189
滋賀県	12	8	13	13	13	12	12	12	12	6	11	13	13	13	13	13	189
京都府	11	9	13	13	13	12	12	12	11	8	12	13	13	13	12	12	189
大阪府	12	12	12	12	12	12	12	12	22	9	13	13	12	12	12	12	201
兵庫県	17	12	12	12	12	12	12	12	19	6	13	13	13	13	13	12	203
奈良県	13	8	13	13	13	12	12	12	9	7	12	13	13	13	13	12	188
和歌山県	7	8	13	13	13	12	12	12	6	7	11	13	13	13	13	12	178
鳥取県	6	9	13	13	12	12	12	12	3	6	12	13	13	13	13	13	175
島根県	5	6	13	13	13	13	13	12	3	6	6	14	14	14	14	14	173
岡山県	16	9	13	13	13	12	12	12	10	6	12	13	13	13	13	13	193
広島県	11	12	12	12	12	12	12	12	12	6	13	13	13	13	13	12	190
山口県	12	7	13	13	13	13	12	12	7	7	12	13	13	13	13	12	185
徳島県	12	9	13	13	13	12	12	12	5	6	12	13	13	13	13	13	184
香川県	8	8	13	13	13	13	12	12	3	7	10	14	13	13	13	13	178
愛媛県	12	8	13	13	13	13	12	12	9	6	12	13	13	13	13	13	188
高知県	7	6	13	13	13	13	13	12	0	6	12	13	13	13	13	13	173
福岡県	21	12	12	12	12	12	12	12	16	8	13	13	13	13	12	12	205
佐賀県	10	7	13	13	13	13	12	12	5	6	8	13	14	14	14	14	181
長崎県	12	10	13	13	12	12	12	12	7	9	12	13	13	12	12	12	186
熊本県	12	8	13	13	13	12	12	12	6	6	11	14	13	13	13	13	184
大分県	12	10	13	12	12	12	12	12	4	6	12	13	13	13	13	13	182
宮崎県	10	11	13	12	12	12	12	12	5	7	12	13	13	13	13	12	182
鹿児島県	12	9	13	13	12	12	12	12	8	6	11	14	13	13	13	13	186
沖縄県	12	12	12	12	12	12	12	12	2	7	13	13	13	13	12	12	181
計	531	447	595	594	586	576	566	564	508	337	551	615	610	608	598	586	8,872

I. 恋愛観について

◆恋愛・交際に関する意識

- 未婚者の4人に3人以上（76.3%）が「現在交際相手はいない」と回答、[前回2023年](#)の72.0%から若干上昇。前回同様、男性が女性を上回る
- 未婚者のうち49.5%が「恋愛・交際に関して興味がある」と回答、[前回](#)59.9%から割合は低下

◆出会いのきっかけ

- 恋人や結婚相手となる可能性がある人との出会いのきっかけをたずねたところ、「知人からの紹介」がトップで、「職場」が続き、「飲み会・合コン」が[前回](#)から上昇。25-29・30-34歳では「マッチングアプリ」の割合が約3割を占める

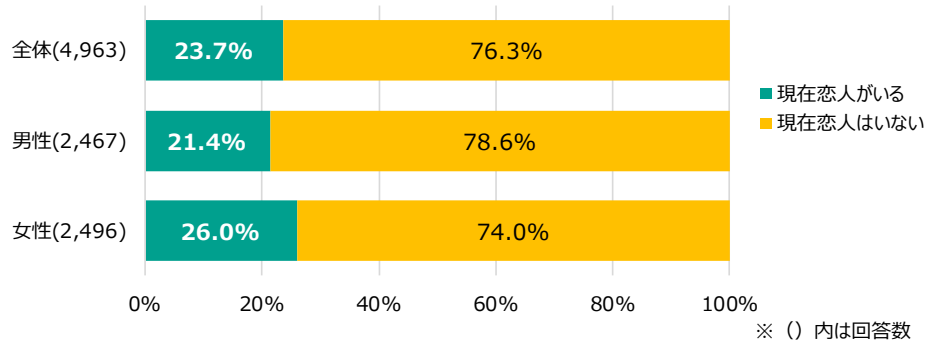
◆理想の連絡頻度とデート頻度

- 恋人との理想の連絡頻度は男女とも「毎日1回程度」、理想のデート頻度は「週1回程度」がトップ

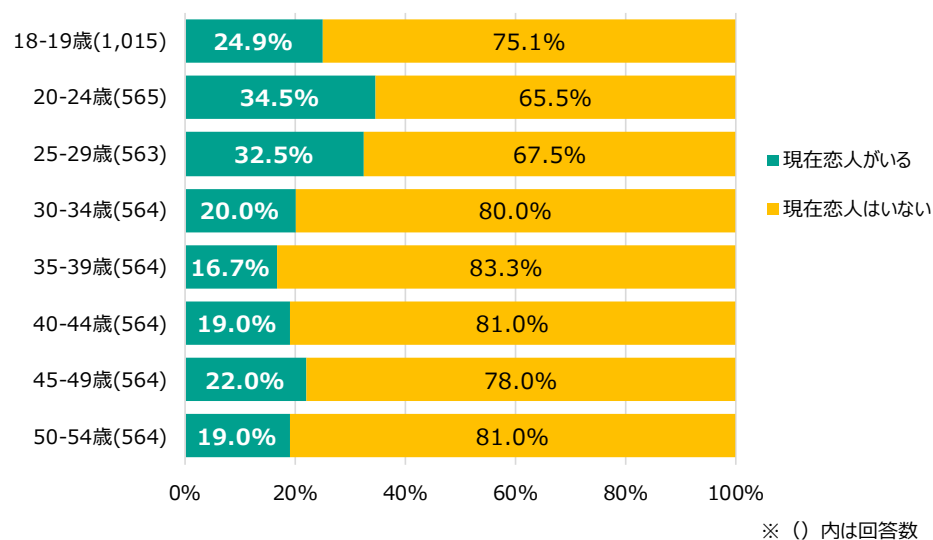
◆デートでの支払い

- 女性はデート回数にかかわらず「半々」の支払いを希望する割合が高い一方、男性は「すべて支払う」を含め多めに支払う意識が高い傾向。支払いについてインフレによる負担増を感じる割合は若年世代ほど高い

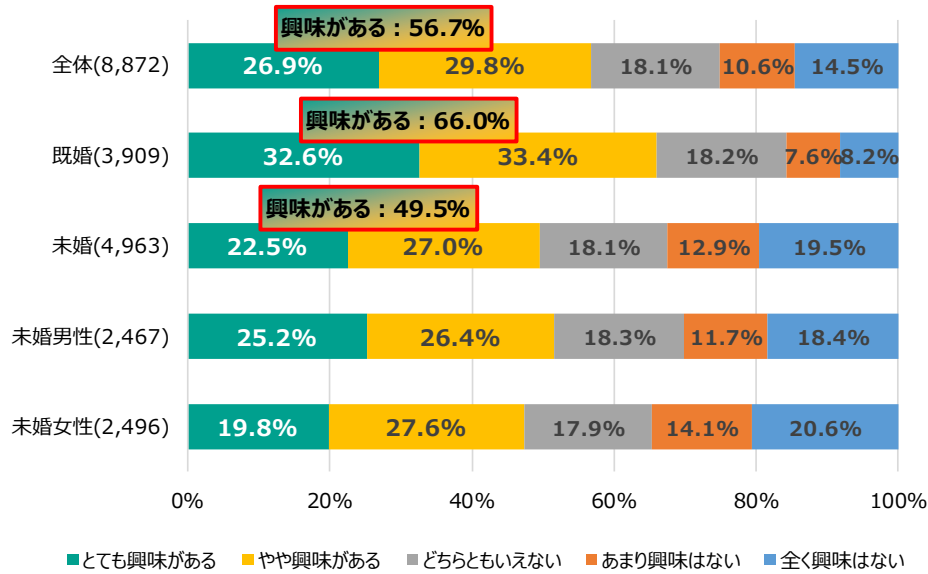
【質問】あなたは現在、恋人はいますか。（未婚者、単一回答）



<年代別>



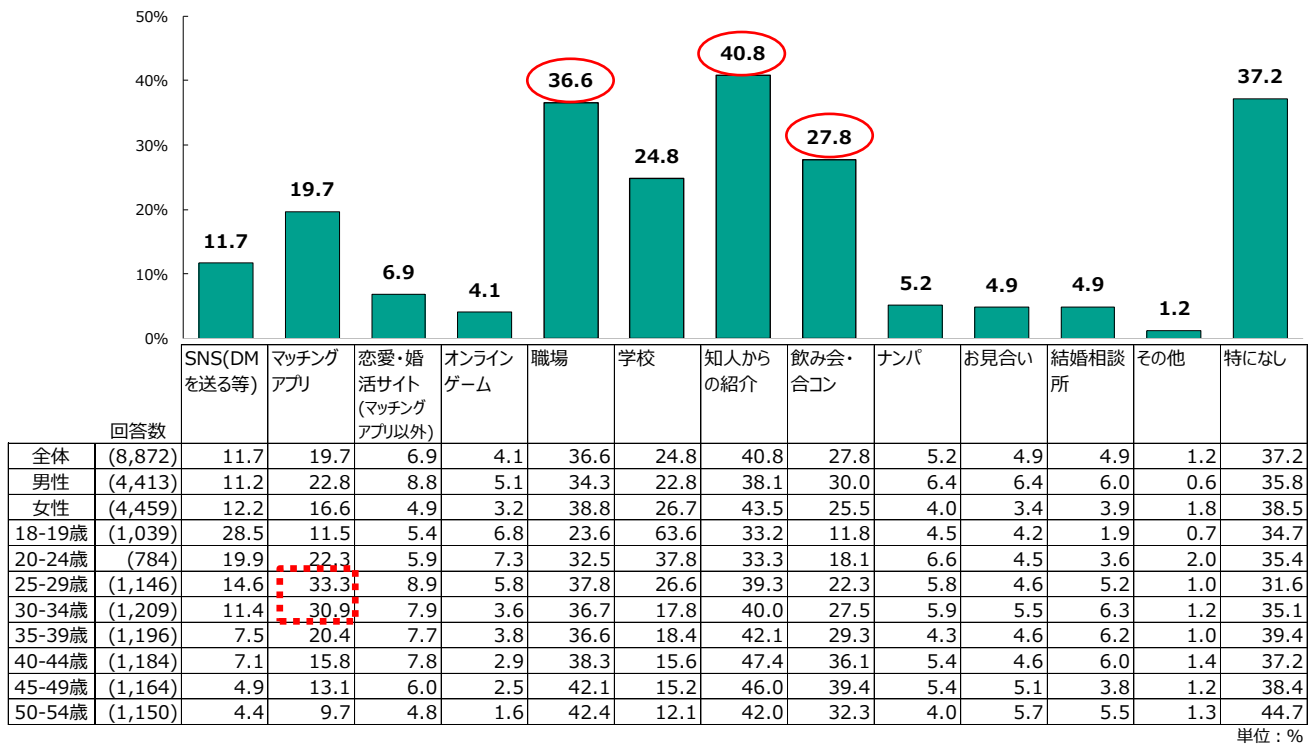
【質問】恋愛・交際についてどの程度興味がありますか。(単一回答)



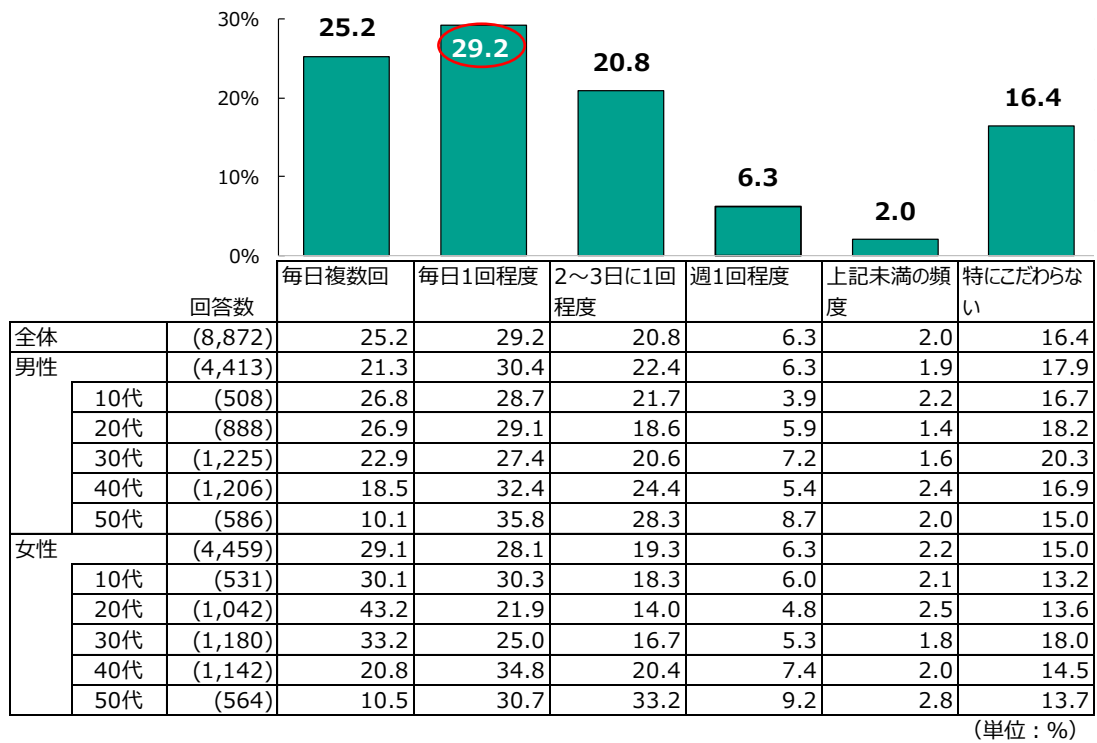
※ () 内は回答数

注) 既婚者については、結婚する前の恋愛・交際についての興味を回答

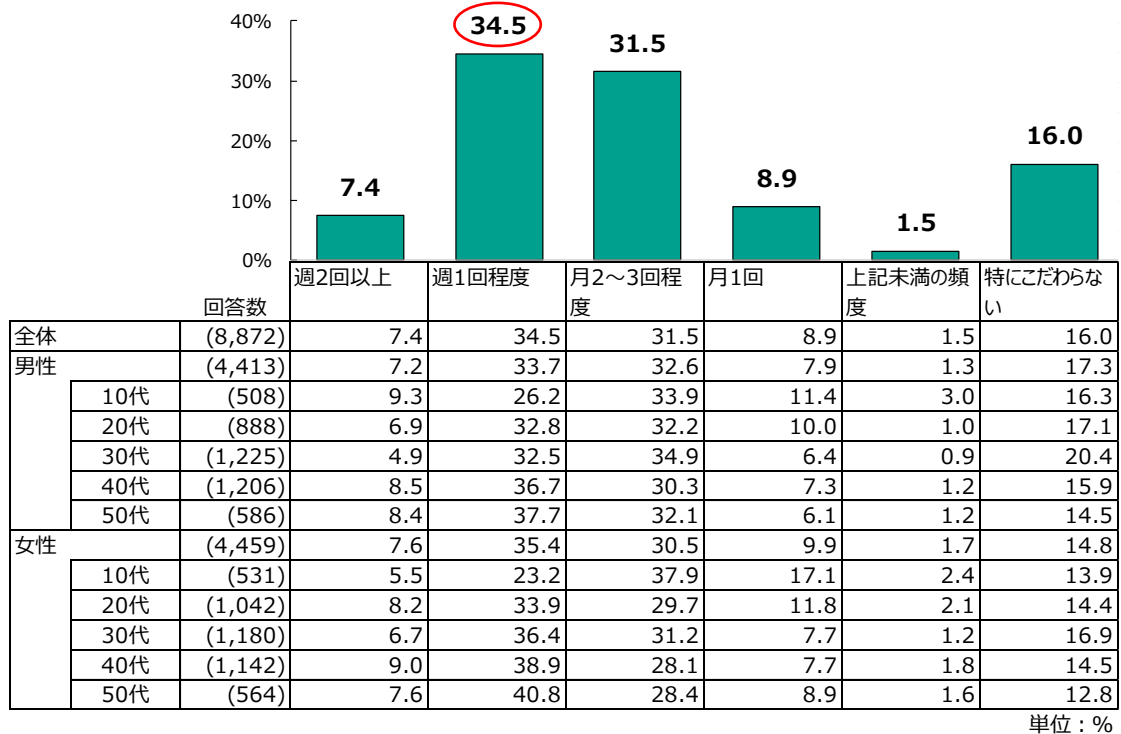
【質問】恋人や結婚相手となる可能性がある人と、どのように出会うことが多いですか。(未婚者・既婚者、複数回答)



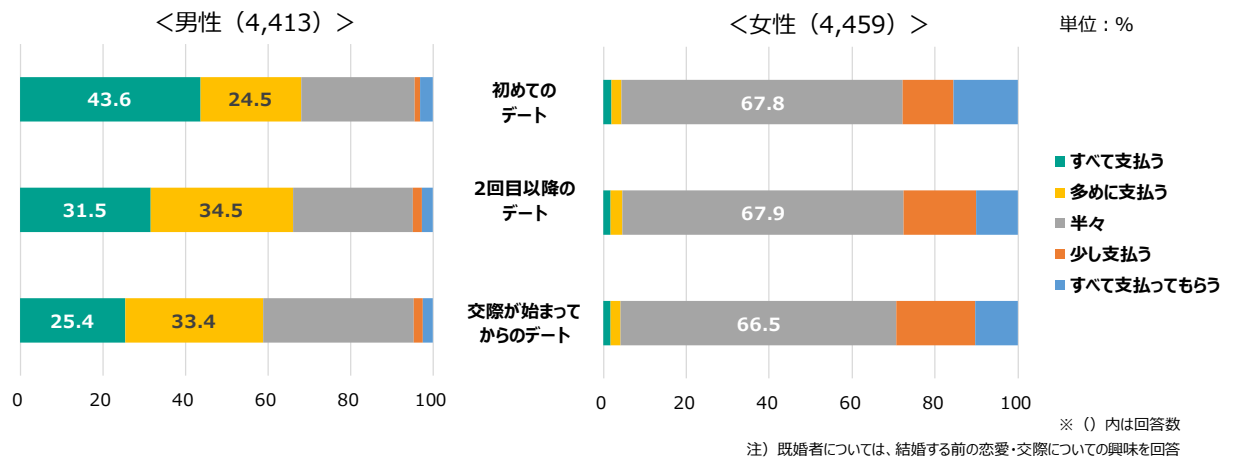
【質問】理想の連絡頻度。(未婚者・既婚者、単一回答)



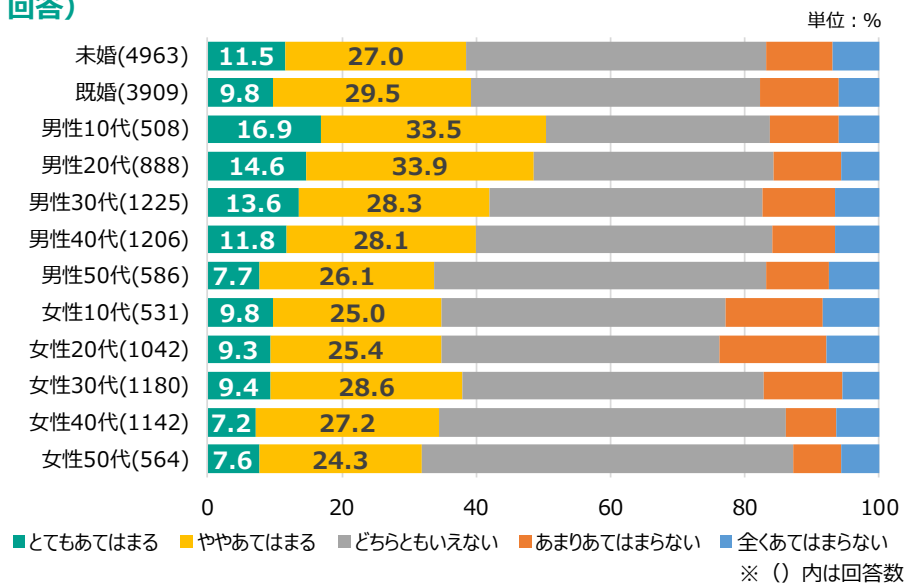
【質問】理想のデート回数。(未婚者・既婚者、単一回答)



【質問】それぞれのデートで、どの程度ご自身で支払うことを希望しますか。（未婚者・既婚者、単一回答） 支払いには食事代や施設の利用代等すべてを含む。



【質問】デート時の支払いについて、インフレによる負担増を感じますか。（未婚者・既婚者、単一回答）



主任エコノミスト 森田幸大が分析！

このアンケートからは、2年という短い期間でも、「奢る」、「奢られる」の関係に大きな変動が生じつつあることが見えてきます。

2023年のアンケートと比較して、初めてのデートにおいて、男性の「すべて支払う」と回答した割合が5.5%低下した一方、女性の「半々」と回答した割合は8.6%も上昇しました。つまり、初デートであっても、男女ともに支払いの偏りを希望しない動きになっており、自然とお互い「割り勘」に歩み寄っているようです。ただし、この歩み寄りには男女で違う動機によるものかもしれません。



アンケートの結果では、インフレによる負担増を感じる人の割合は全般的に男性の方が高くなりました。総務省が公表している消費者物価指数によると、2023年から2025年にかけて、「外食」の価格は6.7%上昇し、「入場・観覧・ゲーム代」も4.3%上昇しています。男性の場合は、「今までは多く出していたけれども、昨今の物価高ではさすがに…」というお財布事情に絡んだ苦渋の選択であることが考えられます。

一方、インフレでお財布事情が厳しくなっているのは女性も同じはずですが、逆に「より多く出したい」という動きになっています。これには、女性の社会進出の進展が背景にありそうです。総務省の「労働力調査」を基に計算できる女性の労働力率（働いている、または求職活動をしている人の割合）は、2023年11月の55.3%から、2025年11月は56.8%まで上昇しました（男性は同期間0.3ポイント程度の上昇にとどまっています）。自立した経済力を持つ女性が着実に増えているなかで、「対等に、きっちり割り勘にしたい」という感覚が広がりを見せているのではないのでしょうか。

初デートでこうした動きがあるなか、その後の交際や結婚においても、近い将来、色々な負担をきっちり対等に分け合うという関係性がスタンダードになっていくかもしれません。

Ⅱ. 結婚観について

◆交際から結婚へ

- 未婚者に、付き合ったら結婚を考えるかをたずねると、47.2%が「あてはまる」と回答、[前回](#)の 43.9%から割合は上昇。同棲してから結婚したいと考える人の割合も若年世代を中心に高い
- 女性は男性に比べ、恋人との連絡において既読・未読スルーを気にする傾向

◆結婚の意向

- 結婚の意向について未婚者の 36.8%が「結婚したい」と回答、[前回](#)の 47.3%から割合は低下
- 結婚したい理由をたずねたところ、未婚者の男女とも「好きな人と暮らしたい」「支えあえる人が欲しい」が上位。なお、「経済的に安定したい」は女性が 15 歳程度男性を上回る。女性は男性より、結婚は生活面や将来の安心が得られるものと捉えている可能性も
- 結婚したくない理由では、未婚の女性は「必要性を感じない」が、男性は「自分が自由に使えるお金が減りそう」がトップ

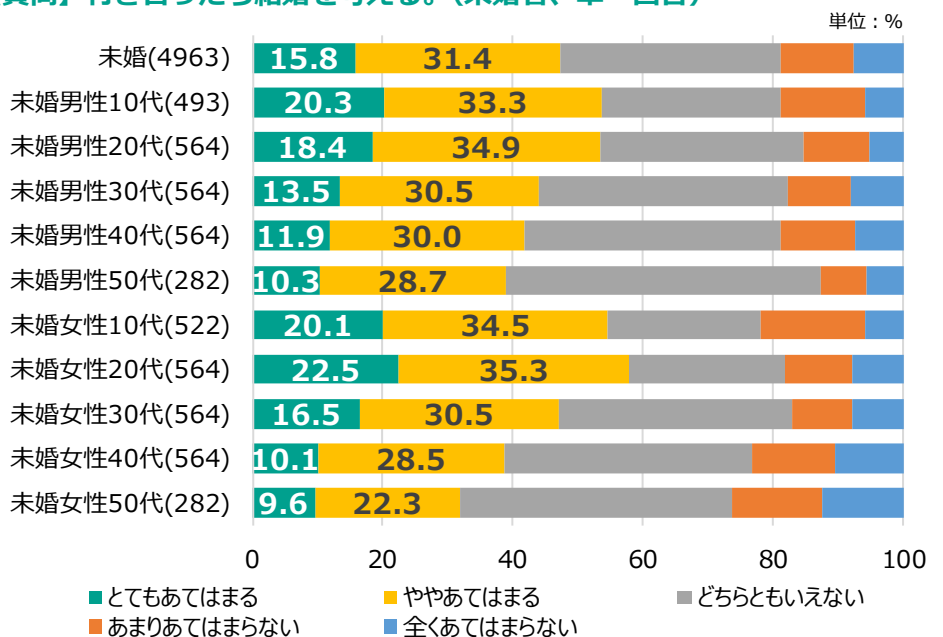
◆家事分担

- 理想の家事分担（子育て含む）割合は「自分：5 割、相手：5 割」である一方、現実には男女間でギャップ。仕事の日については男性の 58.6%が「自分が 5 割以上」家事を行なっていると感じている一方、女性の 95.0%が「自分が 5 割以上」家事を行なっていると感じている

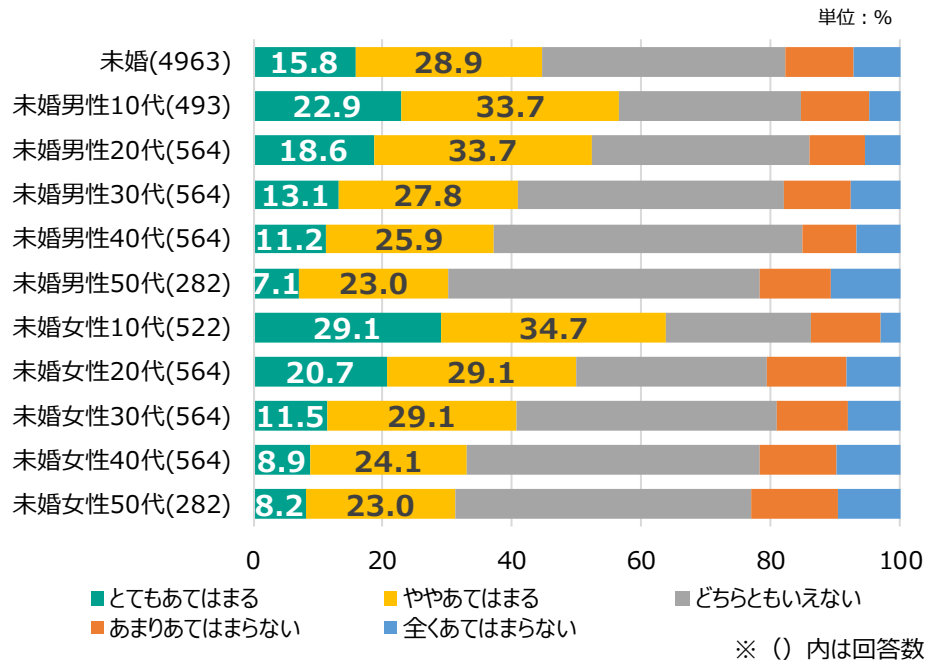
◆理想のライフコース

- 女性が望む理想のライフコースは「結婚もしくは出産後に退職、子育て後時短・パートタイムで仕事に復帰」と「結婚し出産後もフルタイムで仕事を続ける」がほぼ同水準でトップ。一方、男性が女性に求める理想のライフコースは「結婚し出産後もフルタイムで仕事を続ける」がトップ

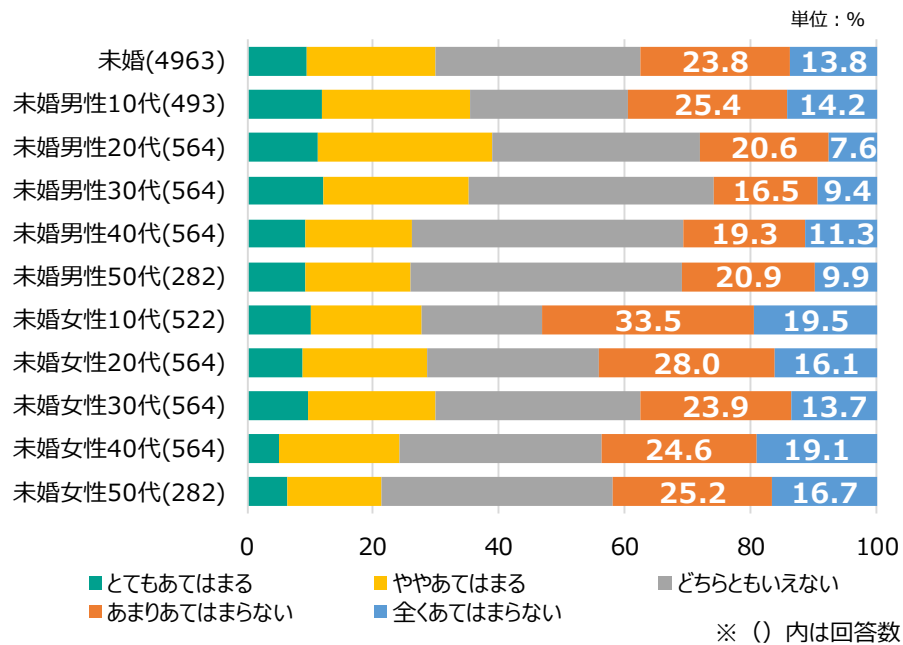
【質問】付き合ったら結婚を考える。(未婚者、単一回答)



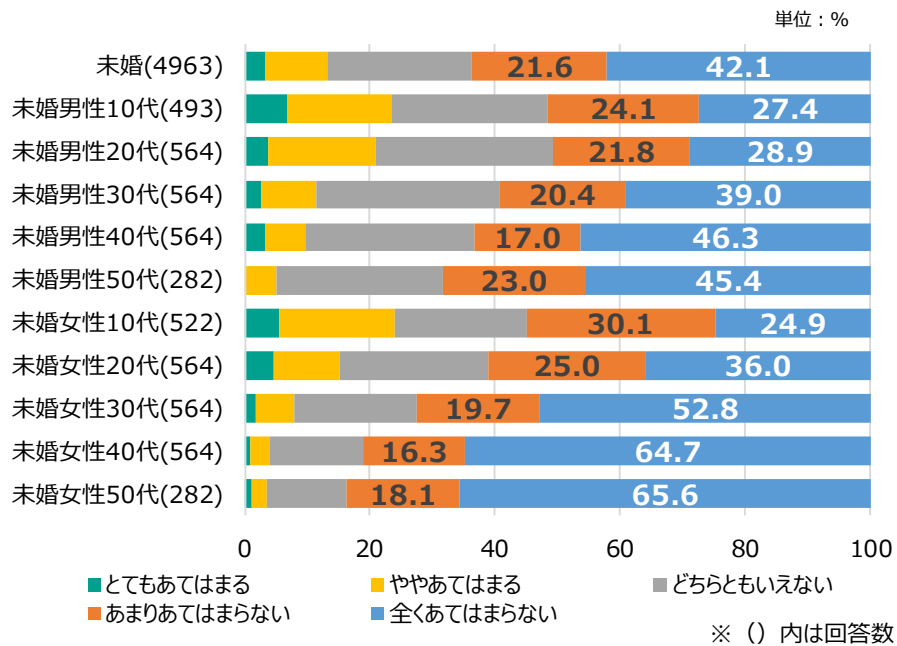
【質問】 同棲してから結婚は考えたい。(未婚者、単一回答)



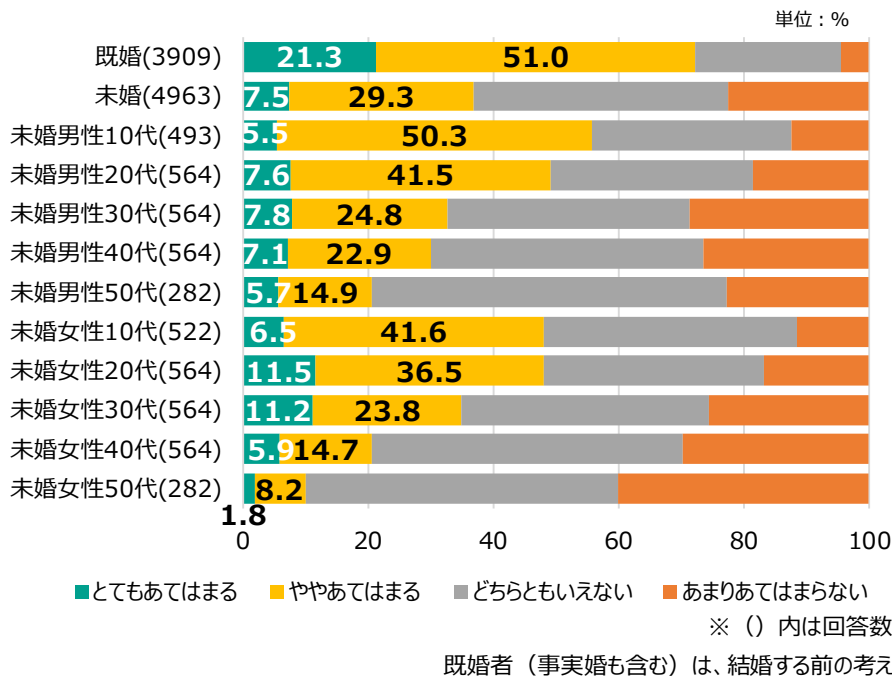
【質問】 恋人との連絡において既読・未読スルーは気にならない。(未婚者、単一回答)



【質問】 SNSで交際を発信したい。(未婚者、単一回答)

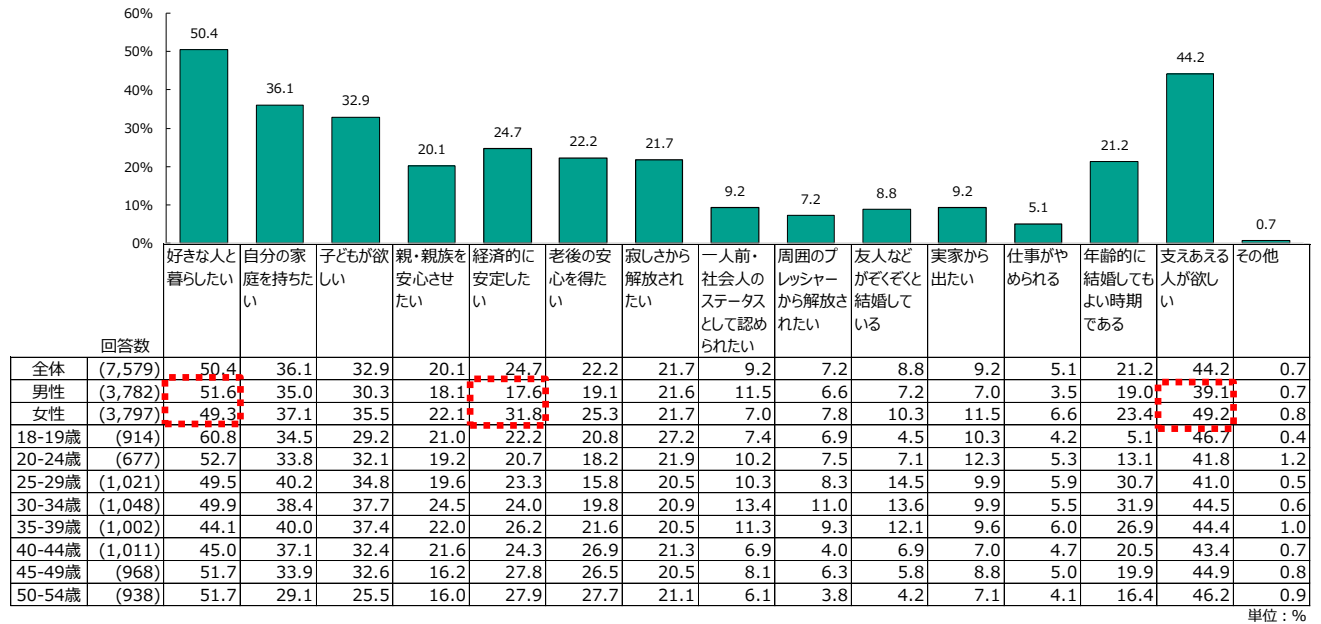


【質問】 あなたは結婚したいと思いますか。(未婚者・既婚者、単一回答)



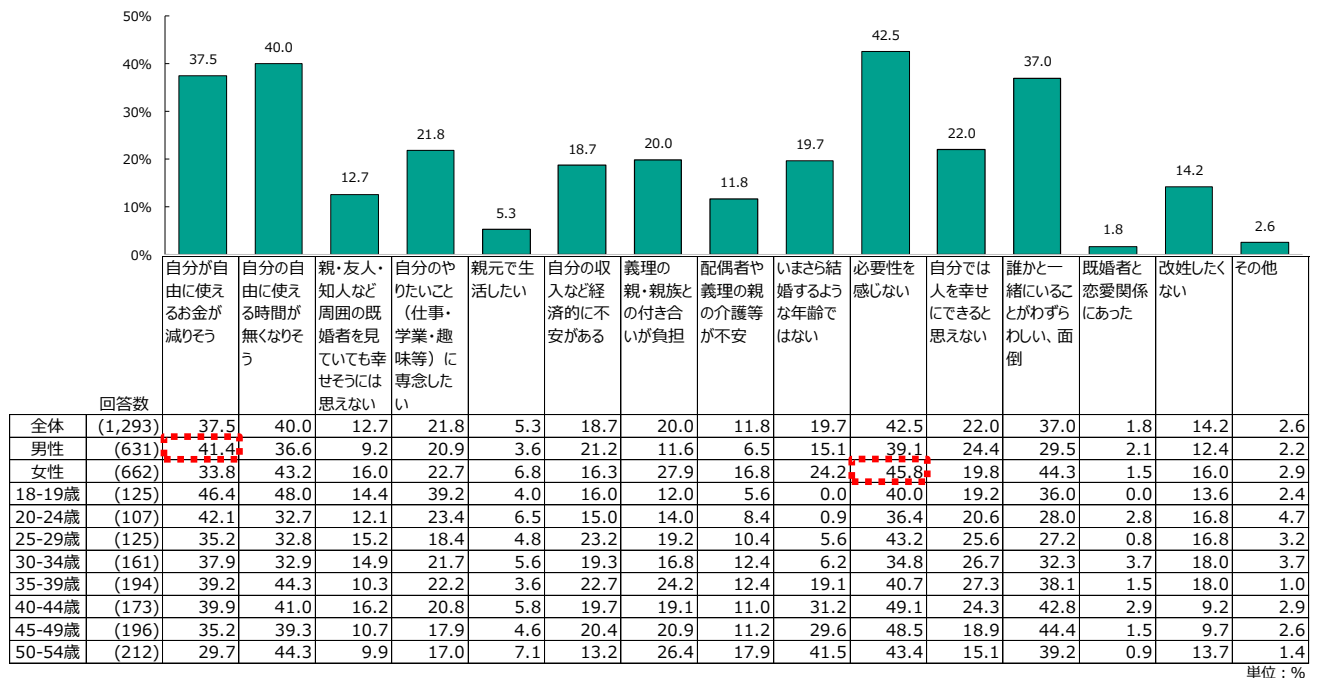
【質問】あなたが、結婚したいと思う理由を、すべてお選びください。（複数回答）

※既婚者（事実婚も含む）は結婚する前の考えについて回答

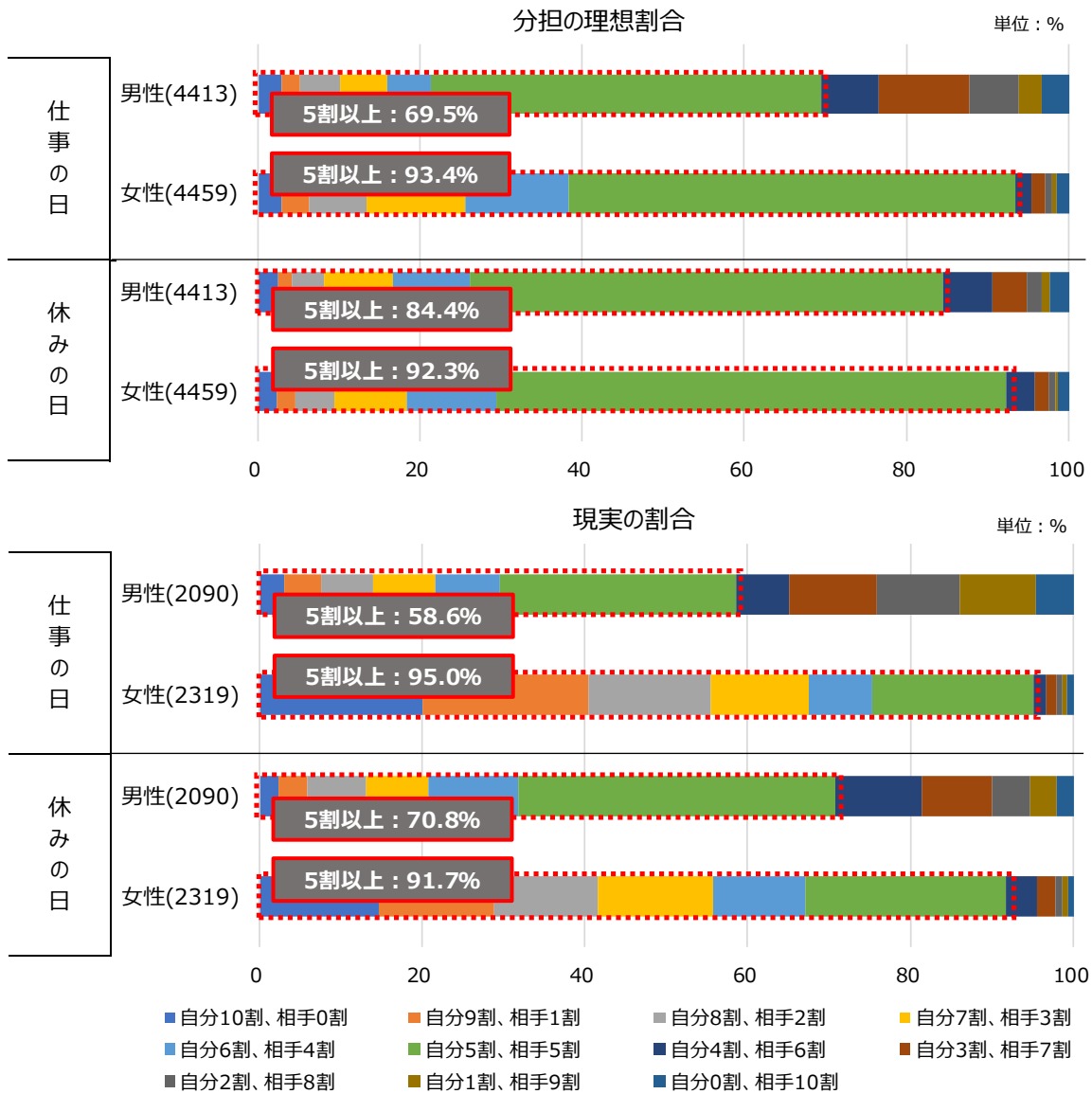


【質問】あなたが、結婚したくないと思う理由を、すべてお選びください。（複数回答）

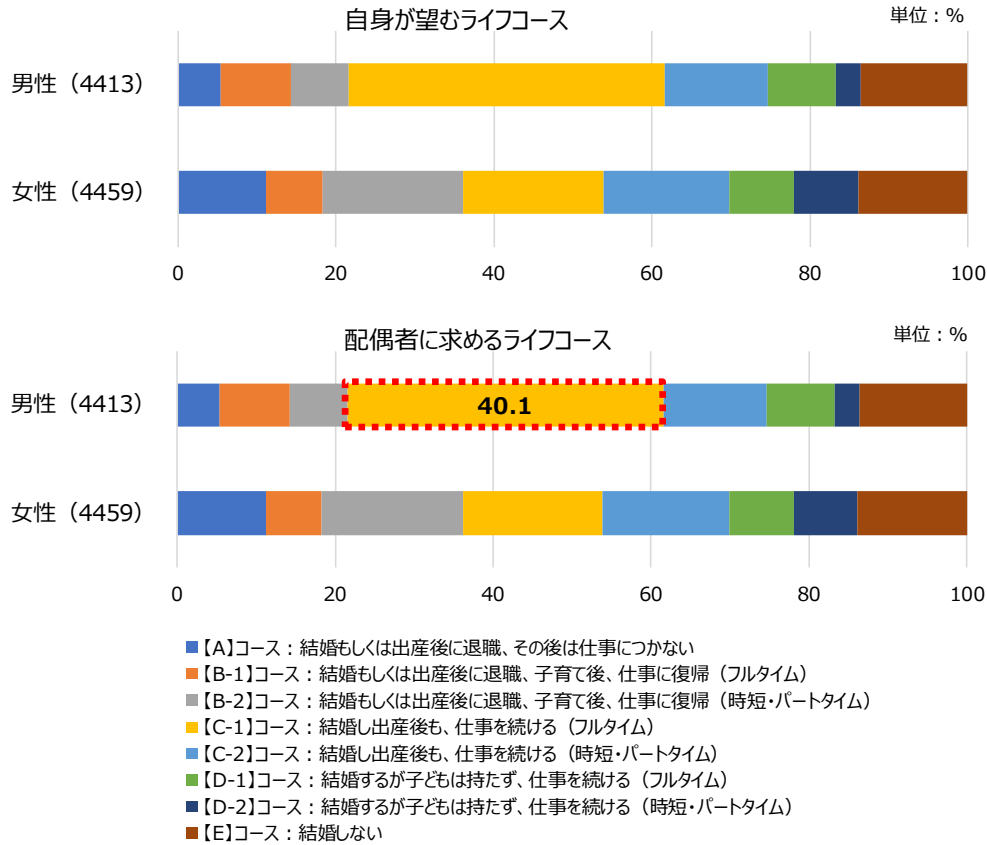
※既婚者（事実婚も含む）は結婚する前の考えについて回答



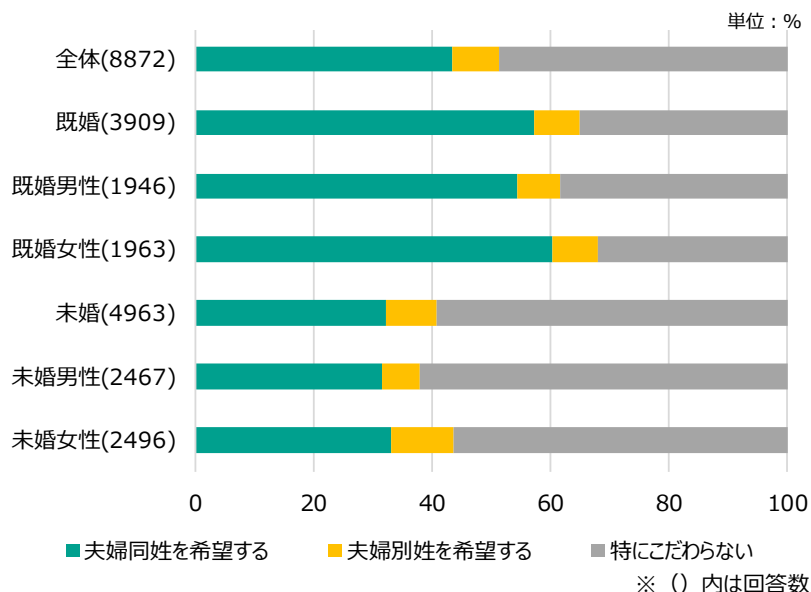
【質問】家事（子育て含む）の分担の理想と現実。（単一回答）



【質問】 ご自身の望むライフコース、および配偶者に望むライフコースについてお答え下さい（単一回答）。将来結婚したいとお考えの方は、結婚するとした場合に相手に求めるライフコースをお答え下さい。既婚者（事実婚も含む）は、結婚する前の考えをお答え下さい。結婚をしないとお考えの方は、ご自身・配偶者に求める両方で、Eコースをお選びください。



【質問】 婚姻後の姓について、あなたの考え方に近いものをお選びください。既婚者（事実婚も含む）は、結婚する前の考えについてお答えください。（単一回答）



主任エコノミスト 前田和孝が分析！



未婚者に結婚の意向をたずねた質問で、「結婚したい」との回答は 36.8%にとどまり、前回 2023 年調査から 10 年以上低下しました。結婚したくない理由を見ると、女性は「結婚の必要性を感じない」、男性は「自分が自由に使えるお金が減りそう」がトップとなっており、女性は価値観、男性は経済的な負担と、性別によって違いが生じています。

一方、付き合ったら結婚を考えるかをたずねると、47.2%が「あてはまる」と回答し、前回（43.9%）から上昇しています。最近では「若者は結婚に消極的」や「恋愛と結婚は別」といった、単純な“結婚離れ”を指摘する声も聞かれます。しかしながら、アンケート調査からは、「恋愛は恋愛、結婚はなりゆきで」のような考えの人は減り、その一方で「結婚を全く望まない」と、「交際するなら結婚前提で」の層が増え、結婚観が二極化している可能性が読み取れます。

また、結婚後ですが、共働き世帯が増えていることもあり、今では家事の夫婦間シェアが当たり前になりつつあります。理想の分担割合について聞いてみると、男女とも「自分：5 割、相手：5 割」が主流で、意識上は完全平等がスタンダードとなっています。一方、現実には、仕事の日が男性の 58.6%、女性の 95.0%が「自分が 5 割以上」と感じていると回答しました。“家事は女性がやるもの”という昔の前提は意識上は薄れ、男性も自分はかなり家事をしていると思っています。ただ、それでも女性側の感覚とは大きく食い違っているのが現実で、お互いに自分の方がやっているという認識のギャップが新たな課題になっています。このギャップを埋めるには、それぞれが行なっている家事のリストアップ、主担当者はどちらか、かかっている時間などを「見える化」し、定期的に話し合い、状況に応じて分担を変えていくことなどが有用と考えられます。

また、女性が望むライフコースは「結婚／出産後にいったん退職し、子育て後に時短・パートで復帰」と「結婚・出産後もフルタイムで仕事を続ける」が拮抗している一方、男性が女性に求める理想のライフコースはフルタイムで共働きとなっています。男性側の望むライフコースをたどる場合、女性に「フルタイム＋家事多め」の重い負担がのしかかります。各家庭の事情や個々の特性、ライフステージに応じて、柔軟かつ多様な役割分担があってしかるべきですが、男性側には「手伝う」ではなく「責任を持って担う」という意識への転換がよりいっそう求められるのではないのでしょうか。わたしも以て他山の石としたいと思います。

Ⅲ. 疑似恋愛について

◆推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛をしている

- ・ 若年世代を中心に推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛が浸透。ただし、6割以上が推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛とリアルな恋愛の線引きができていると回答

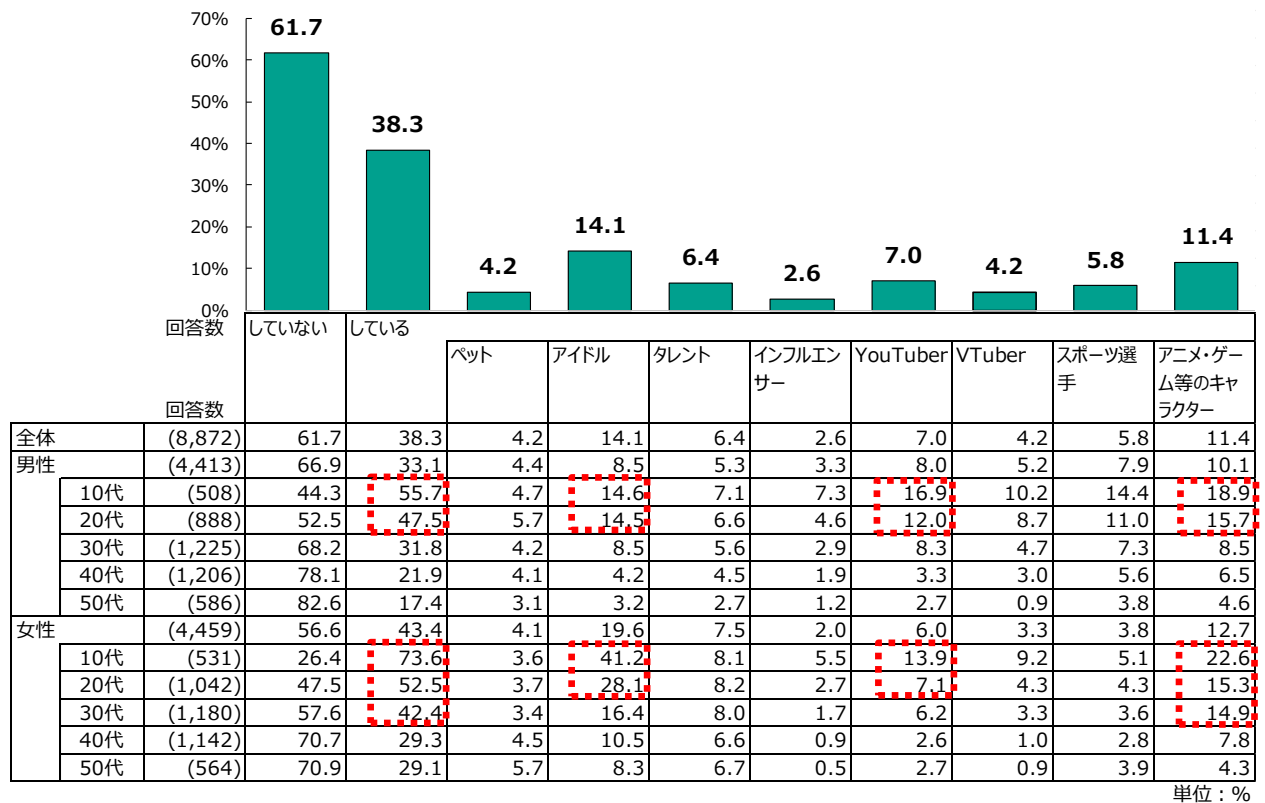
◆恋人の推し活を応援したい

- ・ 推し活に慣れ親しんでいる若年世代ほど、恋人の推し活を応援する傾向

◆推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛の対象に対する金銭の提供

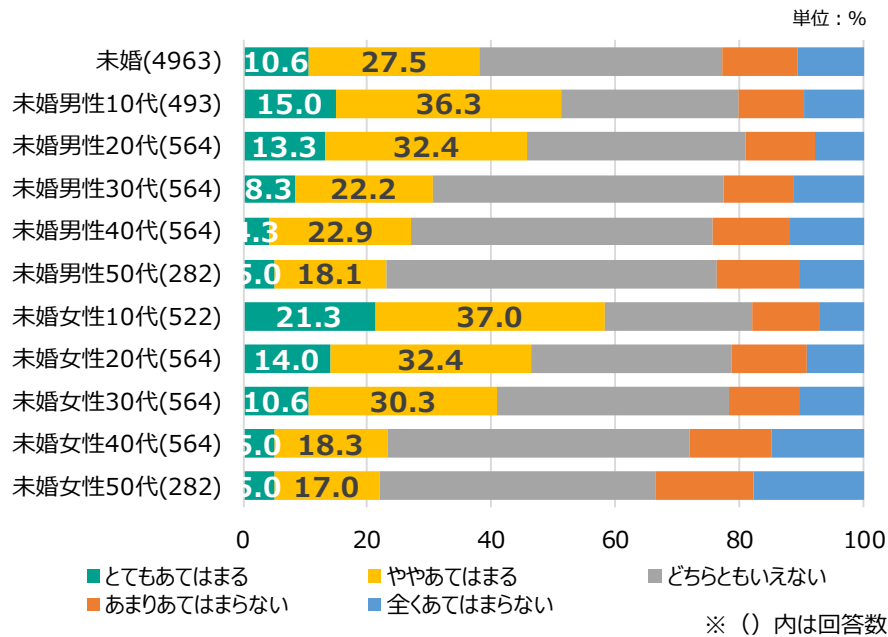
- ・ 推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛の対象に対する金銭の提供（投げ銭・プレゼントなど）をしているとの回答は半数を超える。最も提供した対象についての1回あたりの平均金額は1,000～5,000円が最多で、累計額では10,000円以上50,000円未満が最多

【質問】推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛をしていますか。（複数回答）

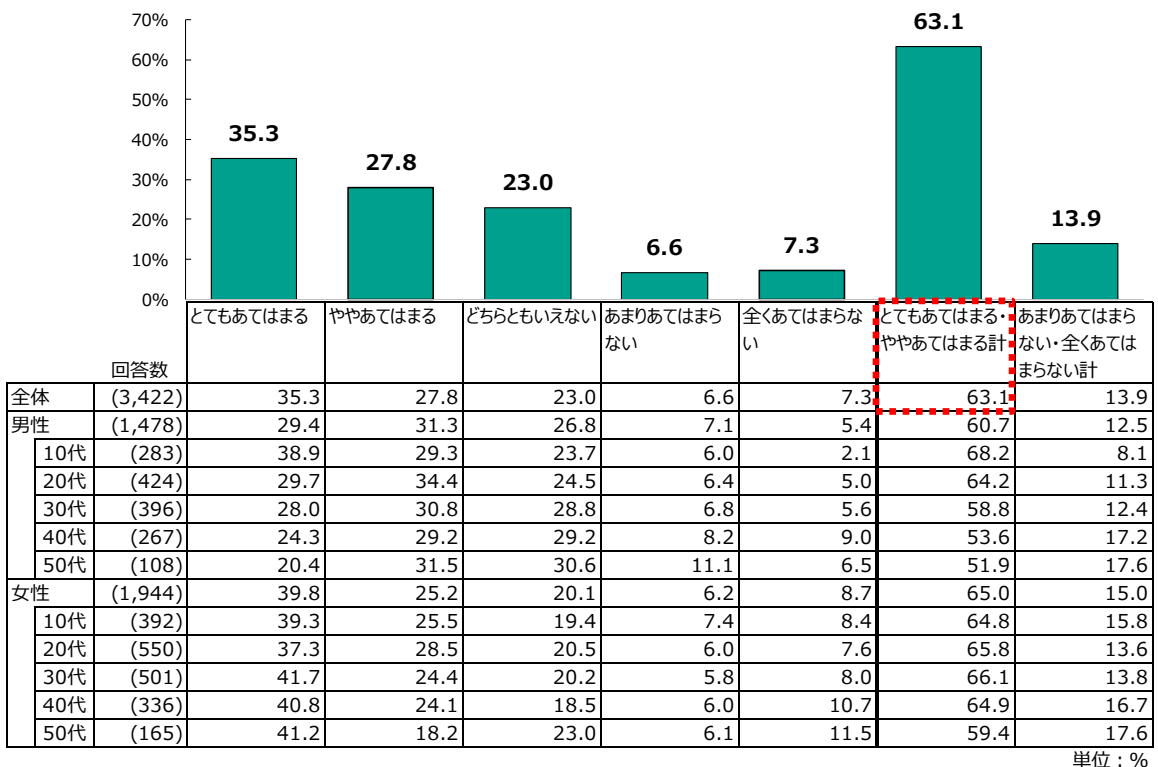


単位：％

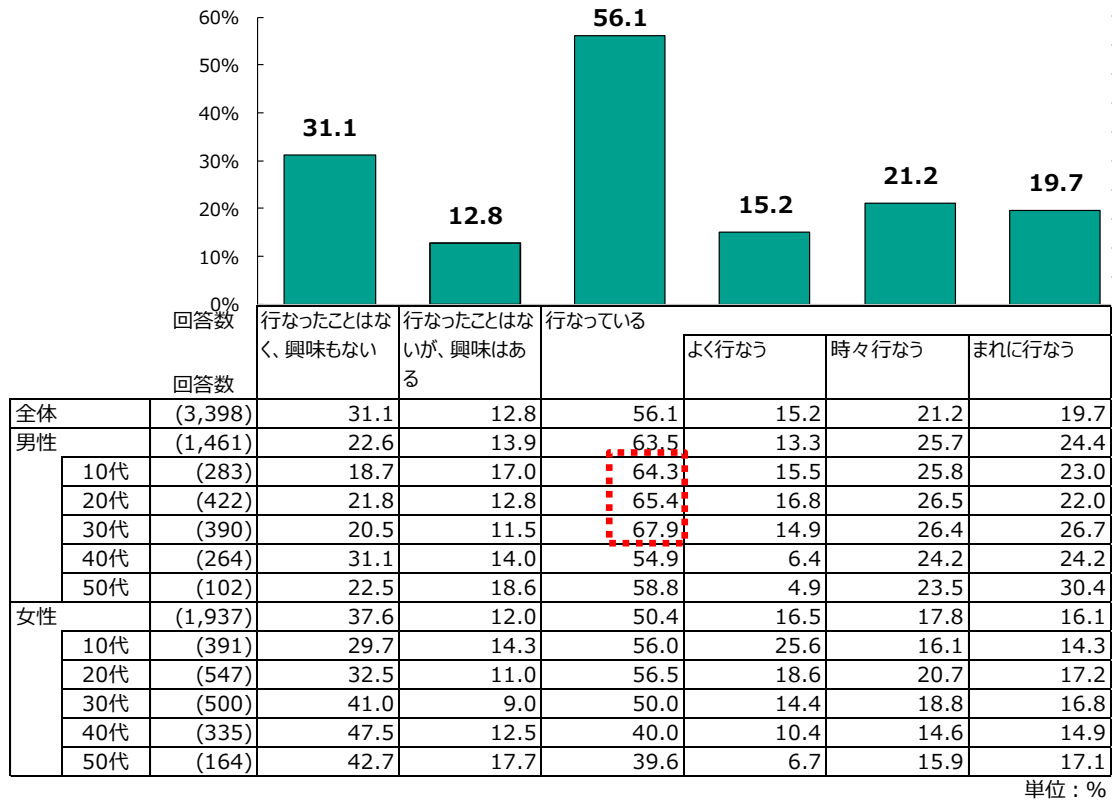
【質問】 恋人の推し活を応援したいですか。(未婚者、単一回答)



【質問】 推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛とリアルな恋愛の線引きができていないか。(単一回答)

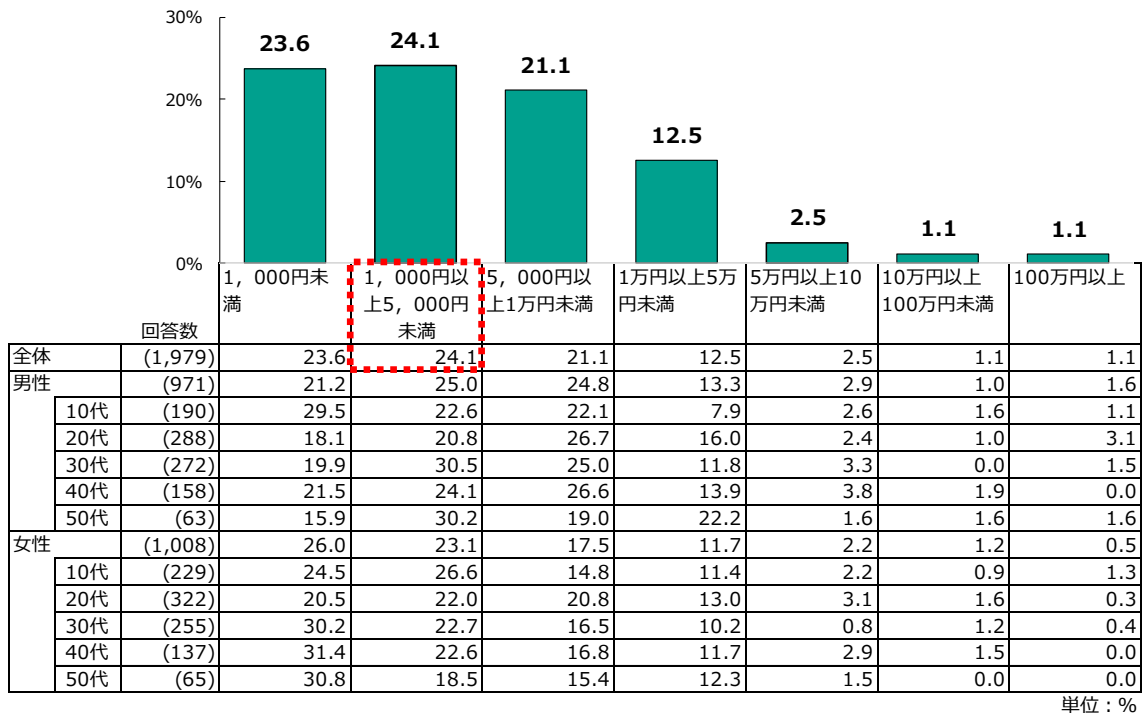


【質問】 推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛の対象に対する金銭の提供（投げ銭・プレゼントなど）をしたことがありますか。ある方は、その頻度を教えてください。（複数回答）

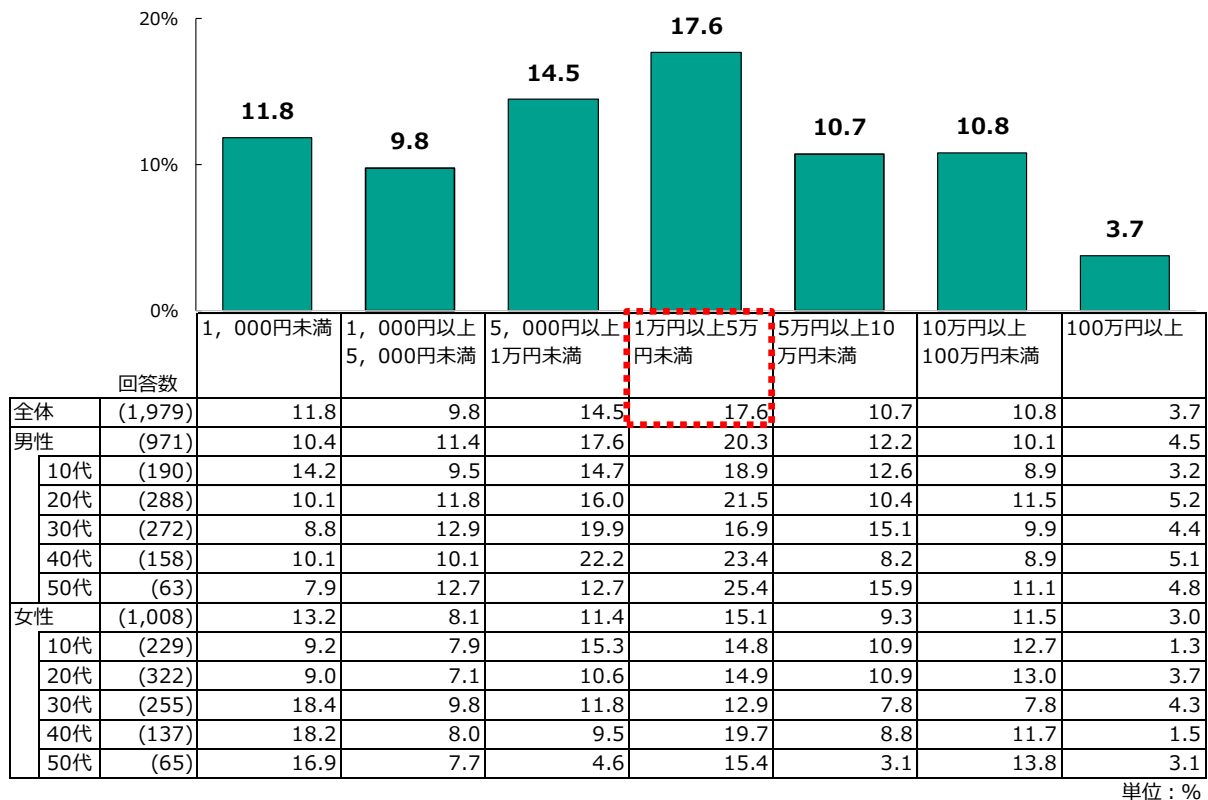


【質問】 推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛の対象に対する金銭の提供（投げ銭・プレゼントなど）をしたことがある方にお伺いします。

あなたが、これまでに最も提供した対象について、1 回あたりの平均金額を教えてください。（単一回答）



あなたが、これまでに最も提供した対象について、累計金額を教えてください。(単一回答)



主席研究員 藤田敬史が分析！



若年世代を中心に「推し活」やバーチャル恋愛・疑似恋愛が浸透しています。本調査でも、6割以上がリアルな恋愛との線引きを意識しつつも、20代の約5割、30代の約4割が推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛を経験していると回答しました。特に女性は各年代で、男性を上回っており、推し活やバーチャル恋愛・疑似恋愛の対象は、アイドル、アニメやゲーム等のキャラクター、YouTuberなど多岐にわたります。また、推し活に慣れ親しんでいる若年世代ほど、恋人の推し活を応援する傾向にあります。推し活や疑似恋愛は自己満足や承認欲求の充足を目的とした新しい消費スタイルを生み出す可能性もあります。デジタル技術の進展とともに、こうした消費が拡大することで、関連産業の市場規模拡大や新たなビジネスモデルの創出が期待されます。

金銭的な側面では、推し活やバーチャル恋愛の対象に対して「投げ銭」や「プレゼント」などの支援を行なったことがある人は全体の56.1%にのぼり、1回あたりの平均金額は「1,000～5,000円」が最多、累計金額では「10,000円以上50,000円未満」が最多となっています。

「投げ銭¹」は、推しとの距離が縮まることで、特別な体験や特典を享受することができ、応援の気持ちを形にできるといったプラスの側面があります。一方、応援したい気持ちが高まって、生活費を

¹ 「投げ銭」とは、もともと大道芸人やストリートミュージシャンなどのパフォーマーに対し、観客が称賛の気持ちを込めて金銭を投げ入れる行為を指します。現代では、インターネット上で配信者などのコンテンツ提供者に対して、ファンや視聴者が応援の気持ちを表現する手段として、アイテム購入や電子決済を通じて金銭を贈る仕組みとして広く使われています。YouTubeなどのプラットフォームでは、リアルタイムで金銭支払いができ、配信者の収益源となっています

削る、あるいは借金をしてまで過度な支出に至る懸念もあります。投げ銭をしないと本当のファンではないと感じてしまう、また、投げ銭をしても推しから期待した反応が得られない場合、精神的なストレスにつながることも考えられます。経済的・精神的な負担などのトラブルといった負の側面も意識し、無理のない範囲で楽しむことが大切です。

IV. AI やテクノロジーが恋愛・結婚に与える影響について

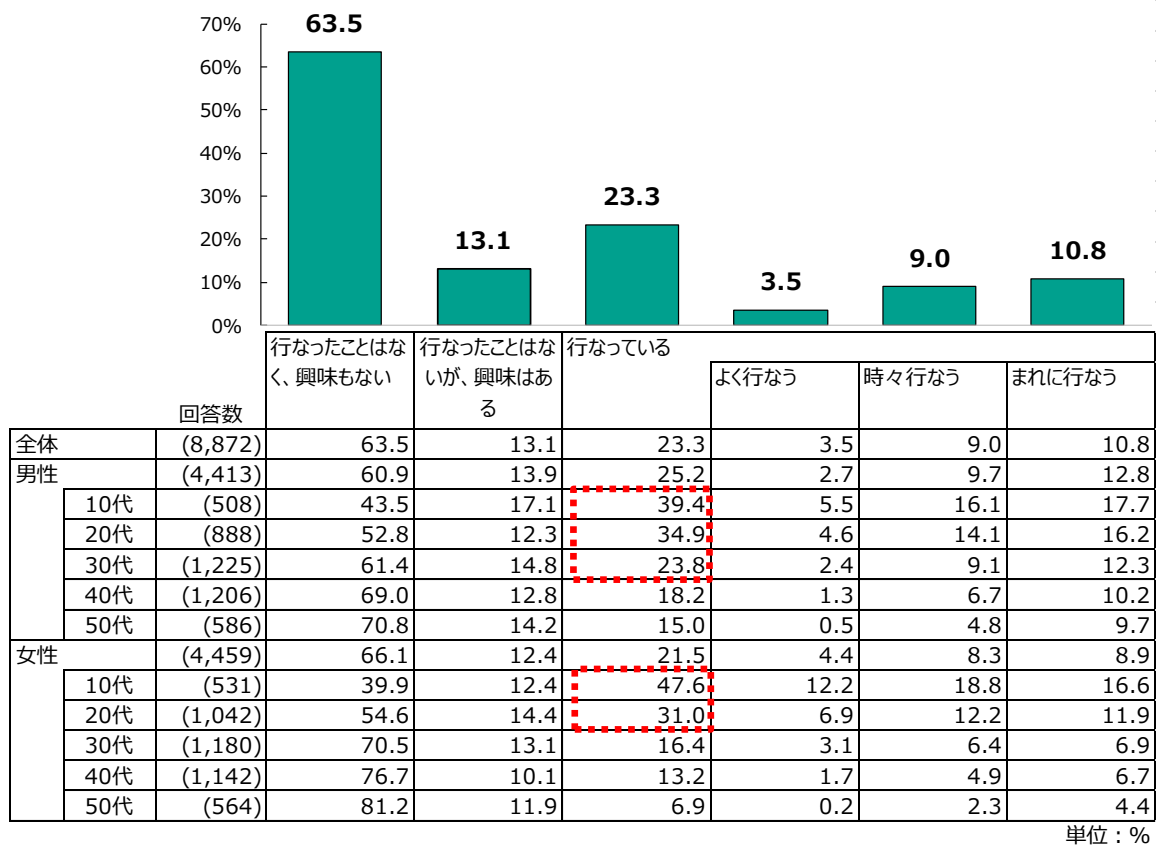
◆恋愛や仕事について生成 AI に相談

- ・ 若年世代ほど、恋愛や仕事について生成 AI に相談する割合が高く、Z 世代では 3 人に 1 人に達する

◆AI 利用に対する対価、考え方

- ・ AI 利用に支払う対価については「有料サービスは利用したくない」が 7 割を占めトップ。ただし、AI への相談割合が高い若年世代ほど AI のアドバイスは有用であると回答しており、使い方を工夫している可能性も

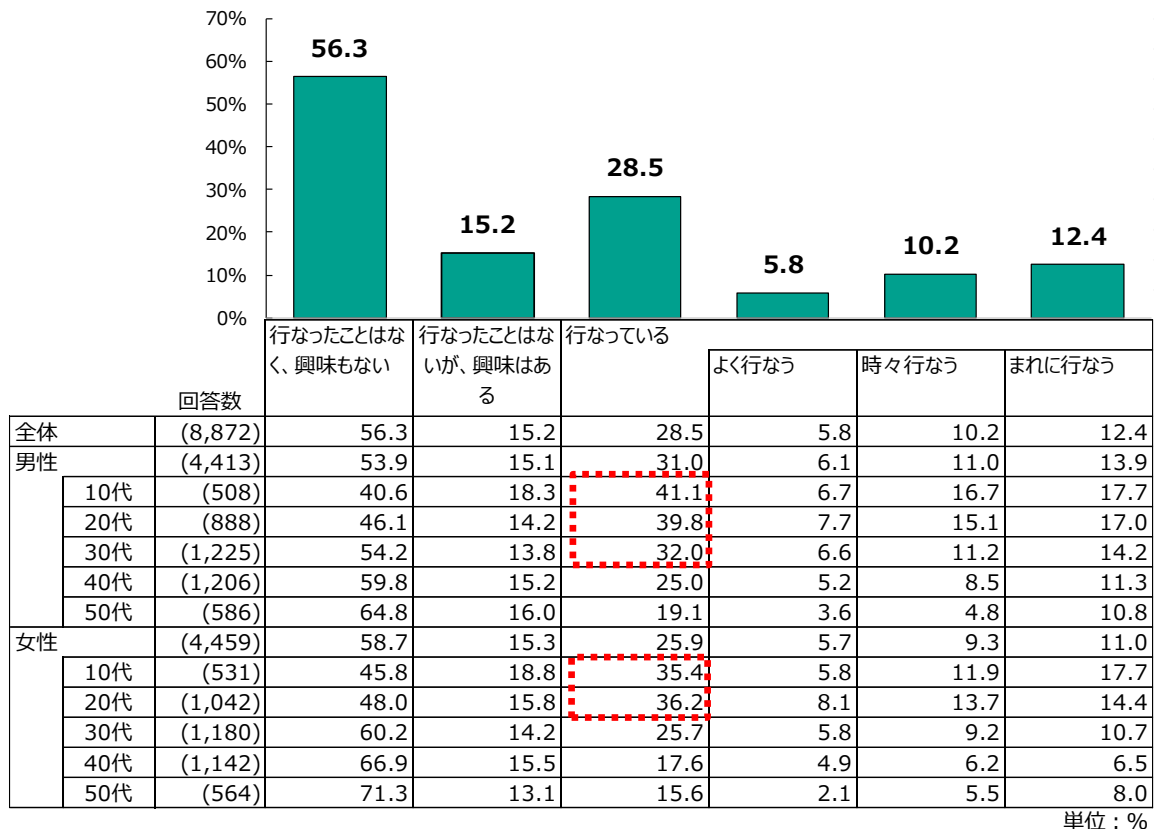
【質問】恋愛について生成 AI に相談をしたことがありますか。（単一回答）



【追加】恋愛の相談内容について、可能な範囲で具体的な内容を教えてください。（主な回答）

相談内容（順不同）
・ SNSやメール、マッチングアプリへの返信、メッセージの作成方法について
・ デートプランの作成
・ 応援や頑張ると励ましてもらった
・ 喧嘩した時の対処法や解決方法
・ 好きな人との接し方

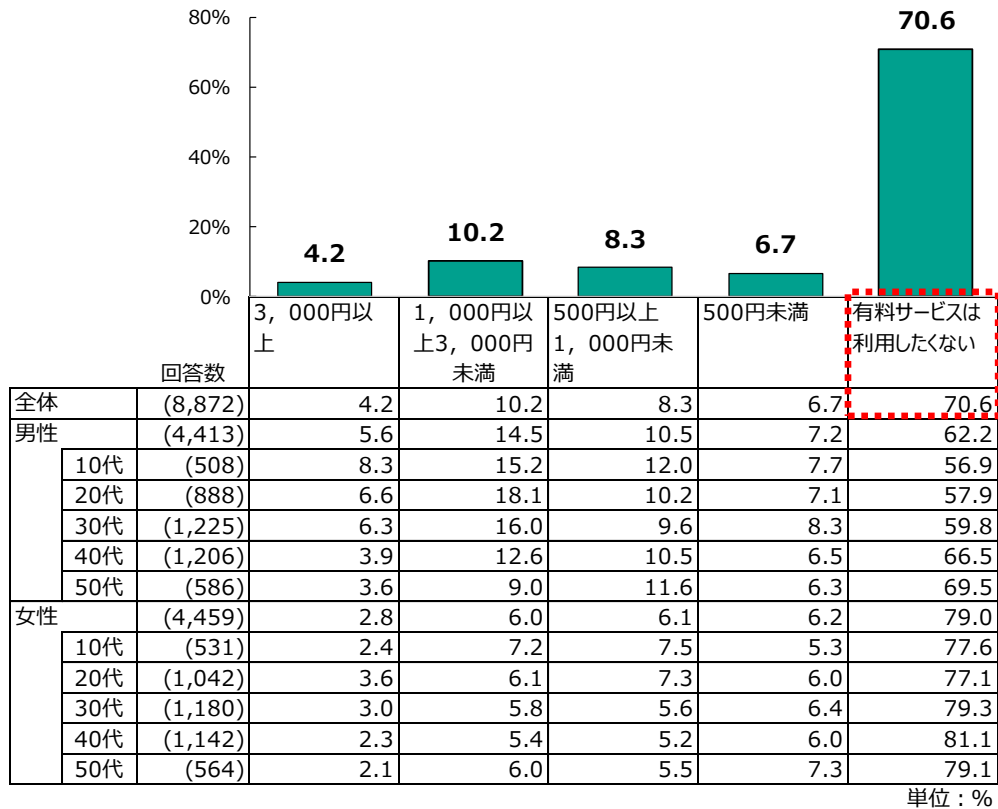
【質問】 仕事について生成 AI に相談をしたことがありますか。（単一回答）



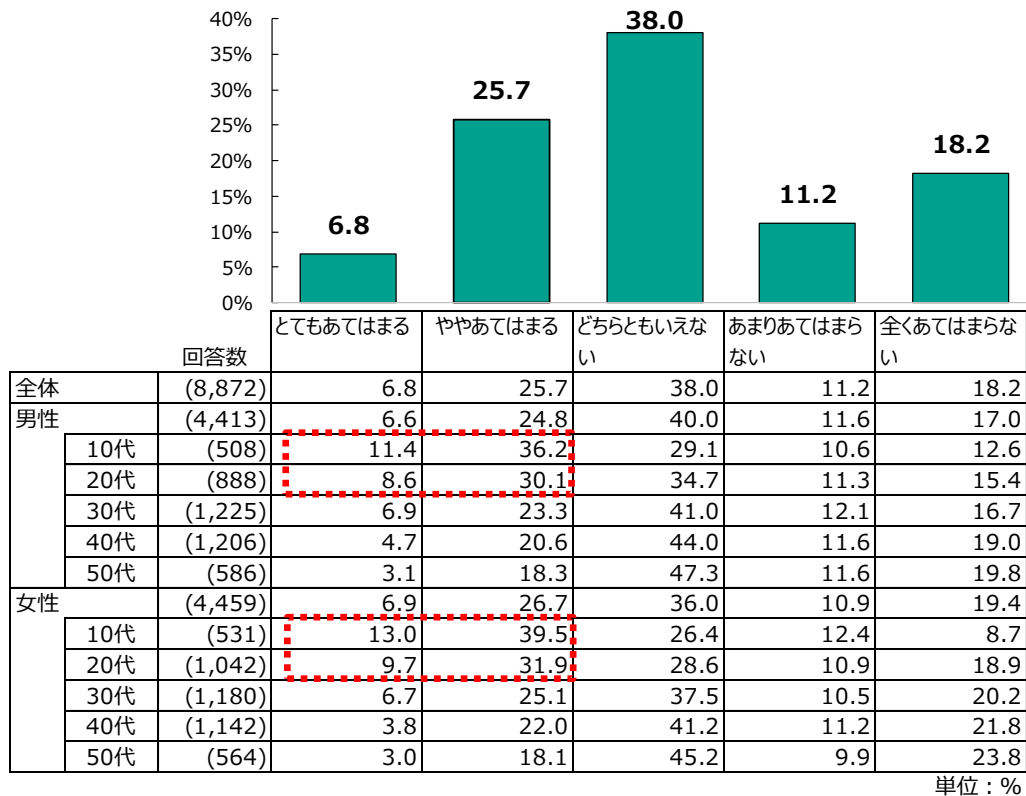
【追加】 仕事の相談内容について、可能な範囲で具体的な内容を教えてください。（主な回答）

相談内容（順不同）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事のアイデア出し ・ 資料作成、エクセルやパワーポイント、ITツールの使い方 ・ 仕事のトラブルやミス、お客さまトラブルの対処法 ・ 今後のキャリア、どのような仕事や職種が向いているのか、転職について ・ 人間関係の悩み ・ 就職活動について

【質問】生成 AI サービスの利用にあたって、1 カ月あたりに支払える最大金額（税込み）として当てはまるものを教えてください。（単一回答）



【質問】生成 AI のアドバイスは有用だと思う。（単一回答）



※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的なトラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●発行元●株式会社明治安田総合研究所 〒102-0073東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411